

説教余滴 『妹の葬儀そのⅡ』

葬儀礼拝自体は、大変喜ばれました。キリスト教葬儀は初めて。兄貴の話も初めて。良かったよ、ありがとう。温かい葬儀だね。俺の時もお願いするから、長生きしてね。

今日の話、もっと前に聞きたかった。クーちゃんにも聞かせたかった。これで、皆と一緒に仲良くして行けそうだ。

一人だけ来ていなかった妹がいる。娘がフランスにいるのでそこへ手伝いにでも行っているのかな、と勝手に決め込んで、聞くこともしなかった。みんなとの話にも出てこなかったから、無事なんだろう。意外と忙しかった。振り返って見ると、出席者は、殆ど持田の者たち。兄弟姉妹とその家族、ご亭主の兄弟が来ておられたので、ご挨拶を戴きました。

妹の家族、連れ合いと男の子二人、それぞれ結婚して二人ずつの子どもがいます。この家族は、相談して妹に手向けの言葉を書きました。

「2015年4月に大腸ガンが見つかり切除手術、一部転移があり以降化学療法にて治療に取り組む。2017年末頃から肝臓へ転移していたガンが大きくなり始め治験薬などを試みるも10月に全ての使える薬がなくなり11月中旬より緩和病棟にて療養。」

「一人で病に立ち向かい弱音を吐かず、最後の最後まであきらめずに病と闘い、立派な最期を遂げました。人のことを思いやり、自分のことより他人のことを優先させる優しさを持ち、ゆえに辛い思いをすることもありましたが、大切な家族・多くの兄弟・友人に囲まれて幸せな人生を送りました。」

一人で病気と闘った、と感じたのは正しい感じ方でしょう。しかし妹は、決して一人とは考えなかったはずです。家族や兄弟がいるから、支えられて闘病できた、と考え感謝していました。私の妹にしては上出来です。2月には、74歳になるころでした。

田浦教会の皆様のお祈りに感謝いたします。